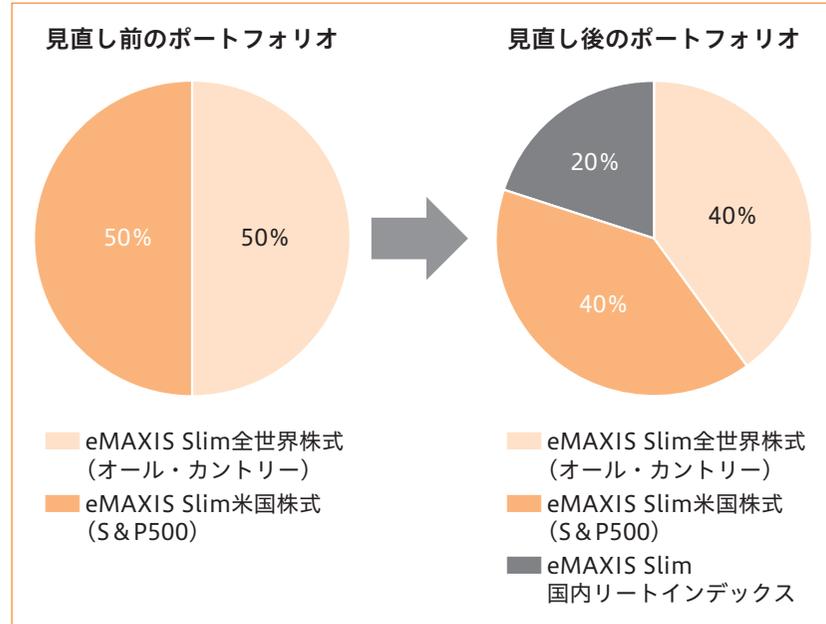


新NISAスタートから1年 顧客本位の投信アフターフォロー術

図表1 全世界株式・米国株式のみ保有のお客様への
ポートフォリオ見直し提案前後の変化



(出所) 著者作成

外国債券ファンドは主要国の短期金利が高止まりする中で、為替ヘッジコストの負担が大きく基準価額上昇の足を引く張る可能性がある。そのため為替の影響を受けない資産として、J-REITファンドも選択肢になる。オルカンの運用会社である、三菱UFJアセットマネジメントの「eMAXIS Slim国内リートインデックス」とオルカンの基準価額の相関係数を筆者が計算したところ、0.389となった。まったく逆の動きをするとはいえないものの、相対的に値動きの連動性は低いと考えられる。

J-REITは日銀の段階的な利上げが見込まれる中で、借入金利の上昇が懸念されて、コロナ後のリバウンドした高値から緩やかな下落基調が継続している。しかし、分配金利回りは5%を超えて

POINT

- ▶ オルカンの組入国比率は約3分の2が米国であるため、米国株の影響を強く受ける
- ▶ 分散投資の効果を得るなら、値動きが異なり為替変動の影響も受けない資産が候補

おり魅力的な水準にある。また、J-REITの純資産と時価総額を比較した「NAV倍率」は1倍を下回っており、これも割安な水準だ。オルカンやS&P500のみに投資しているお客様には、まずは全体の資産状況、今後の収入や支出の状況等をヒアリングしよう。そのうえで、追加する資産の値動きの特徴や留意点を丁寧に説明しながら、最適な分散投資を提案するとよい。

運用タイプ別 資産運用の見直し提案は このように行う

ここでは、現状の資産運用に不安を感じているお客様を運用タイプ別に深掘りし、ポートフォリオの見直し提案のポイントを解説する。

寺田尚平 ウェルビーイング・コンサルティング・オフィス代表社員/CFP®

タイプ 1

新NISAをきっかけに投資を始めた 全世界株式と米国株式のみの初心者層



全 世界の株式に投資する投資信託と、米国株式に投資する投資信託が人気だ。その代表的な商品は、通称「オルカン」と呼ばれる「eMAXIS Slim全世界株式（オール・カントリー）」と「S&P500」と呼ばれる「eMAXIS Slim米国株式（S&P500）」である。

特に新NISAから投資を始めたお客様には、「とりあえずオルカンとS&P500だけを買っておけば大丈夫」という風潮も見られる。オルカンの月次レポート（2024年11月）によると、組入国比率はアメリカ65.9%、日本4.7%、イ

ギリス3.1%と続く。全世界株式とは言うものの米国株の比率が高く、米国株の影響が大きいと考えられる。当然ながら、S&P500は米国株100%である。

例えば、オルカンとS&P500を50%ずつ保有しているお客様の場合、投資している資産の80%超を米国株に投資していることになる。

また、オルカンやS&P500が投資している通貨の大部分は、米ドルを中心とした外国通貨であり為替変動の影響を受ける。両ファンドの月次レポート（2024年11月）によると、両ファンドの基準価額の変動要因（概算）のうち、おおむね株式要因が

約72%、為替要因が約28%を占めている。

債券やREITを加え 分散投資効果を得る

ここ数年、主要国の株式と比べて米国株は突出したパフォーマンスをあげている。それに円安基調も相まって、「オルカンやS&P500だけではない」という風潮に拍車がかかっているわけだ。

一方でオルカンとS&P500だけの保有に不安を感じ、長期の安定運用を希望するお客様もいるだろう。その場合は、他の資産クラスへの資産分散を提案したい。

分散投資効果を得るためには、株式とは異なる動きをす